

乳幼児健診の質的向上に関する研究

研究協力者 吉田 哲彦（広島市衛生局長）

共同研究者 名越 雅彦，近藤 信之

田井 富子，松井 明美

植田 智子，森 弘子

安部 敦子，浦田 初子

米光 英子（広島市衛生局）

1 はじめに

乳幼児健診は母子保健サービスシステムの中で中核的役割を果たしており、かねてよりその質的向上をめざして、実施方法の改善やシステム化がはかられてきた。しかし、そうした改善やシステム化は各地域により個々に実施されてきており、全国的にみると、その実施方法や内容、健診システム等は地域により異なっている。中でも、政令市においては、県が主体の健診と市町村が主体の健診を合わせて実施しており、政令市以外の地域とでは状況がかなり異なっている。

こうしたことにより、本研究においては、広島市において実施されている乳幼児健診の現状を把握し、問題点を明らかにし、それらを改善するための方策を試行・評価することにより、大都市における乳幼児健診の望ましいあり方を探ることを目的として調査研究を行なった。

今年度はまず現状業務の把握と、既存資料に基づく現状分析および受診者と未受診者の両群を対象とした調査を試みた。

2 広島市における乳幼児健診の現状

広島市は人口約 104万人、出生数約 13500人の政令指定都市である。本市における母子保健サービスシステムは図1のように、母子健康手帳交付時に始まり、妊婦教室、出生後の新生児訪問、および4か月・9か月・1才半・3才の4回の各集団健診を、保健所が一貫して実施している。また、乳児期に2回、市内の医療機関で委託健診が実施されている。

これらの情報は、母子健康手帳交付時に作成される母子健康管理票に集約され、管理されている。

集団健診の実施状況は図2のようであり、乳児健診には各保健所ごとに、医師1、保健婦5、栄養士1があたり、幼児健診には、これに加えて、歯科医師1、歯科衛生士1、保健婦1（計6）が従事する。

3 乳幼児健診受診率について

年齢別、区別の乳幼児の集団健診の受診率は表1のとおりである。

① 地域差

地域的にみて、受診率に極端な差はないが、商工業地域を抱えている市の中心部は比較的受診率

が低く、住宅地域を抱えている市の周辺部では、受診率が高い傾向にある。

② 年齢による差

4か月・9か月・1才半・3才の各集団健診の受診率は加齢とともに漸減する。

③ 健診方式による差

集団方式（保健所で実施）と個別方式（医療機関に委託して実施）の差をみると集団方式の受診率の方が高い。

4か月・9か月の平均 85.5%

個別方式 66.6%

4 受診者と未受診者の比較調査結果について

未受診の原因を理解するため、未受診者と受診者に対して比較調査を実施した。対象数、調査数は表2のとおりである。これによると、調査不能の中には転出、および電話不通（不明）が多く（合わせて調査不能の74.9%を占める）、未受診の中に転出入者が占める割合は約2割程度と推定される。（未調査率25% × 0.75 = 18.6%）

各年齢ごとに、受診の有無と各調査項目（例えば、母親が働いて ①いる、②いない）との間で、それぞれ χ^2 検定を実施した結果を表3に示す。

受診者に比較して、未受診者の傾向は次のとおりであった。

- ① 母親が働いていることが多く、保育園等で集団生活をしている子供が多い。
- ② 子供は第2子以上が多い。
- ③ 入院・手術あるいは長期的な経過観察を要するような疾病を既往に持つ子供が多い。
- ④ 健診日に都合が悪い場合、保健所に連絡すれば変更可能なことを知らない。
- ⑤ 集団方式より個別方式の健診を希望する母親が多いが、実際には個別方式の受診率も低く、すべての健診を受けない傾向にある。
- ⑥ 4回のすべての集団健診を受診しないものは全対象者の約5%である。

5 健診後の事後指導結果について

広島市においては中枢神経系や感覚器系に異常がある乳幼児については、ほとんどすべて広島市児童総合相談センターへ紹介される。昭和56年～58年の3年間に児童総合相談センターにおいて脳性麻痺（以下CPと略）、精神発達遅滞（以下MRと略）と診断されたものの状況は表4のとおりである。

これによると、健診で発見されるような中等度から軽度のCP、MRはそれぞれ年間約10人、約39人と推定できる（出生約13000人/年あたり）。またCPの36.7%、MRの52.6%が保健所から紹介されていた。

6 まとめ

広島市の母子保健サービスは、政令市である特性を生かして広島市の保健所が一貫して実施しており、体系的なシステムといえる。このシステムから発生する情報はほとんどすべて母子健康管理票に集約されており、電算化を含めた情報処理も、今後考慮されるべき点の一つと考えられる。

乳幼児健診の受診率には、地域差、年齢による差、健診方式による差があると認められたが、中でも個別方式の受診率が十分とはいえず、今後の課題である。

未受診者は、すべての健診を受診しない事が特長的であり、個別健診の受診勧奨、また一定年齢での把握体制についての検討が必要であろう。

事後指導結果等によると、集団健診で初めて発見される疾病は非常に少なく、またfalse positiveの問題も小さくないことから、健診をスクリーニングの機会としてとらえるだけでなく、健全育成を目的とした保健指導の機会としてとらえることにも、重点を置く必要があるのではないかと考え、引き続き調査研究を行なうこととする。

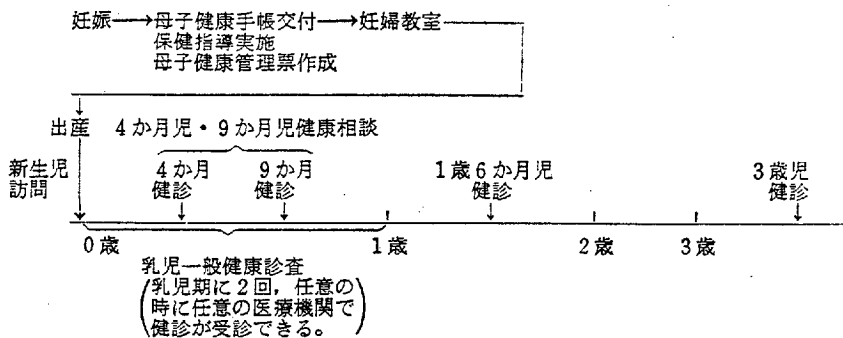


図1 広島市における母子保健サービスシステムの概要

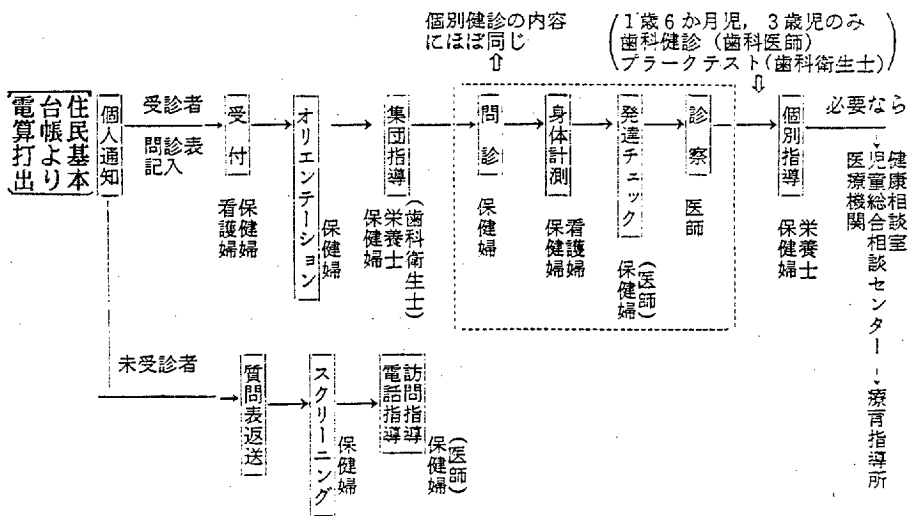


図2 集団健診の実施状況と従事者

表1 年齢別、区別の集団健診受診率 (%)

	区	年齢	4か月	9か月	1才半	3才
中心部	中		84.9	77.4	71.7	63.0
	東		85.9	83.3	80.0	72.0
	南		88.9	80.9	78.3	71.2
	西		88.8	81.8	79.7	69.2
周辺部	安佐南		90.5	86.3	85.6	75.5
	安佐北		86.6	84.4	81.3	70.0
	安芸		90.1	87.2	82.2	81.7
	佐伯		86.8	79.6	82.7	76.1

(昭和60年度の平均)

表2 受診者と未受診者の比較調査の結果

区分	未受診者			受診者
	対象数	調査数	調査率	
4か月	227	173	76.2	261
9か月	279	212	76.0	279
1才半	227	152	67.9	238
3才	274	215	78.5	291
計	1007	752	74.6	1069

調査不能の理由 不在-56人 転出-104人
電話不通-104人 拒否-8人

表3 受診の有無と各調査項目間の χ^2 検定結果

調査項目	4か月	9か月	1才半	3才
第何子か①1子②2子③3子④4子以上	**	**	**	**
母親の年齢①24才以下②25~29③30~34④34才以上	**	*	**	(-)
母親が働いているか ①いる ②いない	**	**	**	**
集団生活をしているか ①いる ②いない	**	**	**	**
大きな病気の既往歴 ①ある ②ない	**	**	*	*
健診のみの目的で病院へいったことがあるか①ある②ない	(-)	**	**	(-)
かかりつけの医院があるか ①ある ②ない	**	(-)	(-)	*
これまで保健所の健診をうけたことがあるか ①はい ②いいえ	4か月	/	**	**
	9か月	/	/	**
	1才半	/	/	**
集団健診と個別健診はどちらがいいか ①集団 ②個別 ③両方 ④わからない	**	**	**	**
会場までの時間①15分以下②30分以下③45分以下④それ以上	**	*	**	(-)
健診日に都合が悪い場合の連絡①知っていた②知らない	**	**	**	**
兄弟の数①0人②1人③2人④3人以上	**	**	**	**

年齢ごとにわけ、受診の有無と各調査項目の間でクロス表を作成し、その表により χ^2 検定を実施した結果を、各調査項目ごとにあらわした。 *は $p < 0.05$, **は $p < 0.01$

表4 児童総合相談センターで診断された脳性麻痺、精神発達遅滞の紹介経路別内訳

	一般病院	一般診療所	保健所	その他	計
脳性麻痺(CP)	13	1	11	5	30
精神発達遅滞(MR)	34	7	61	14	116
その他	206	114	621	30	971
計	253	122	693	49	1117



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1 はじめに

乳幼児健診は母子保健サービスシステムの中で中核的役割を果たしており、かねてよりその質的向上をめざして、実施方法の改善やシステム化がはかられてきた。しかし、そうした改善やシステム化は各地域により個々に実施されてきており、全国的にみると、その実施方法や内容、健診システム等は地域により異なっている。中でも、政令市においては、県が主体の健診と市町村が主体の健診を合わせて実施しており、政令市以外の地域とでは状況がかなり異なっている。

こうしたことにより、本研究においては、広島市において実施されている乳幼児健診の現状を把握し、問題点を明らかにし、それらを改善するための方策を試行・評価することにより、大都市における乳幼児健診の望ましいあり方を探ることを目的として調査研究を行なった。

今年度はまず現状業務の把握と、既存資料に基づく現状分析および受診者と未受診者の両群を対象とした調査を試みた。